

令和7年度 千歳市市民評価会議議事録

会 議 名	市民評価会議（第7回）		
日 時	令和7年7月23日（水）14：00～16：20	場 所	市役所第2庁舎2階 会議室5・6
出 席 者	市民評価委員4名、アドバイザー1名、事務局3名		

会議概要	今年度市民行政アセス対象となった11施策について、各委員から出された意見に基づき、事務局で評価報告書（案）として取りまとめ、市民評価会議に諮った。 本会議において、評価報告書の加筆修正を行い、内容について全委員の承認を得た。
------	--

ヒアリング・評価内容

（1）国民健康保険・後期高齢者医療制度の適正な事業運営、国民年金制度の普及

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

指導によって成果を上げているため、特に何か改善を求めるといような意見は前回までは出ていなかった。改めて改善を求めることはないか。

【委員A】

令和12年に道内で統一された保険料となった際には問題が発生するかもしれないが、令和6年度の評価としては問題ない。

【委員F】

「ハイリスク者」というのは一般的な表現なのか。

【アドバイザー】

市民にとっては馴染みがないかもしれないが、行政上、一般的に用いられるものである。

【委員G】

市としての独自性を出せる部分が限られている事業であり、独自性を出せる部分（保健指導等）はよくやっているのではないと思う。

【アドバイザー】

他の自治体と比べても素晴らしい内容だと思う。

【委員A】

適正な行政規模ということか。

【アドバイザー】

人口の多い自治体は、データを活用しても対象者が多く、先に進めないことが多い。

—記載内容については、異議なし—

（2）新千歳空港の機能拡充の促進

・評価結果「維持」

【委員 G】

「拡充」と言いたい気持ちはあったが、人手不足や燃料の問題などでやむを得ない部分もある。新千歳空港は北海道の玄関口とも言えるので、北海道にもっと頑張ってもらいたいと思う。

—記載内容については、異議なし—

(3) 火災予防の推進

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

「意見」の一つ目で、「LINE や X などのツールを用いた市民へ周知を行っているが、今後はこれらのツールを活用し、より広く市民のニーズをくみ取れるような施策の推進を期待したい。」としているが、なにか具体例はあるか。

【委員 B】

そもそも「LINE や X」ではなく、「SNS やウェブサイト」とした方がいいのではないか。

【アドバイザー】

そのように記載を修正する。

【委員 A】

具体例ではないが「双方向の取組を作る」ということではないか。周知に対して市民からレスポンスがあったり、市民の行動を促せたりするようなものであるとよい。火災予防なので、ヒヤリハットやこういう危険があったという経験や知見を互いに投稿するようなものもいいのかもしれないが、見てもらえるかわからない。

【委員 F】

意外と気になると見てもらえるかもしれない。

【委員 A】

子育てや介護は、皆の日頃の課題だが、火災については、起きてしまうと大変だが、普段はあまり気にならないだろう。

【アドバイザー】

意見の方向性を「今後も周知を続けてほしい」というように変えてもよいかもしれない。または、「評価全般に関する意見」において SNS について触れているため、敢えてここに意見として盛り込まないこともできるだろう。

【委員 B】

消防本部で SNS のアカウントを持っているわけではなく、市公式 LINE 等で周知していることを考えると、意見の一つ目に SNS のことを持ってくるのではなく、2 つ目の意見の啓発活動の部分で SNS の活用について触れてもいいかもしれない。

【委員 A】

出火の原因が時代とともに変化していることを考えると、SNS を通じて意識づけをするというような構成でいいかもしれない。

【委員 B】

「啓発」という表現になっているが、一方的な情報の発信になっているのは間違いなし。市民を巻き込むのであれば、例えば標語を募集して、選ばれた方に何かプレゼントするというような形になるのではないか。

【アドバイザー】

では、これまでの議論をまとめ、「意見」の一つ目と二つ目を統合する。

【委員 A】

全ての施策に言えることだが、せっかく SNS を使うのであれば、通知型ではなく参加型にした方がよい。

【アドバイザー】

では、「評価全般に関する意見」の において、「一方的な配信にとどまらず、双方向の取組や参加型の取組を行うなど工夫してほしい」という内容に記載を修正する。

(4) 公共交通機能の充実

・評価結果「維持」

【委員 B】

「理由」の一つ目において、「運行事業者の経営健全性の維持に向けた支援を着実に進められていることが評価できる」としているが、この文脈だと目的がずれているように感じる。公共交通を維持するために事業者を支援しているのであって、事業者の健全性のために支援しているわけではない。

【委員 A】

「公共交通機能の自立に向けて運行事業者の経営健全性を支援する」というような文章の流れにした方がよい。

【委員 B】

「事業者を儲けさせるため」というように捉えられないようにすべきである。

【委員 F】

同じく「理由」の一つ目の「市民の声を反映したタイムリーな運行」という表現も相応しくないのではないか。現状としてバス路線が減便となっている中で、市民の声を反映しているとは言い難い。

【委員 B】

評価表にある「地域の実情に応じたバス路線の維持・確保」という表現を引用してはどうか。

【アドバイザー】

では、これまでの議論をまとめ、「理由」の一つ目を修正する。

(5) 交通結節機能を高める環境整備

・評価結果「維持」

【委員 B】

「意見」の二つ目に「南千歳駅前は今後利用客が増加することが見込まれている」とあるが、本当に増加の見込みはあるのか。

【委員 A】

フェリーや学校のバスが来ているのに加え、最近ではラピダス社のバスも来ており、結節点となっている。

意見の一つ目に「結節が高度化」とあるが、少し抽象的かもしれない。利便性がいいということか。

【アドバイザー】

待ち時間が少ないということである。

—記載内容については、異議なし—

(6) 支笏湖チップの資源保護と増殖

・評価結果「維持」

—記載内容については、異議なし—

(7) 支笏湖チップのブランド化

・評価結果「維持」

【委員 A】

製品開発数が指標となっているが、ヒアリングの際に担当課から商品開発のアイデアも出尽くしているというような話があった。

【委員 B】

漁獲量や時期が限られるため、商品化だけでは難しくなってくる。ブランディングとして体験を売ることもできるだろう。体験型の取組の例を挙げるといいかもしれない。

【アドバイザー】

アイデアのことや体験型・参加型の取組のことを考えると、「市民協働による取組を期待したい」というような表現を追加してもいいかもしれない。

【委員 A】

事業に対する市民理解ということを考えてよいかもしれない。

【アドバイザー】

では、「意見」の一つ目に「市民協働による取組を期待したい」という文言を追加する。

(8) 治水の推進

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

「理由」の三つ目は、令和 7 年度事業に対する予算要求額についてであり、令和 6 年度分の評価結果として今回記載するか意見を伺いたい。

【委員 F】

令和 7 年度予算を要求しているのは令和 6 年度ではないのか。

【委員 B】

基本的には執行ベースで評価した方がいいのではないかと。予算要求と予算の執行は別で、極端に言えば、予算があっても執行しないこともできる。

【アドバイザー】

予算の獲得までを評価対象にしてしまうと、「こうするつもり」ということも評価の対象となってしまうので、他の施策の評価にも関わってくる。担当課からのヒアリングで伺ったことではあるが、割り切って考えた方がよいかもしれない。

【委員 A】

令和 6 年度分は記載しないでもよい。

【アドバイザー】

では、「理由」の三つ目は削除する。

(9) 河川環境の整備

・評価結果「維持」

—記載内容については、異議なし—

(10) 千歳市公設地方卸売市場による食品の安定供給

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

「意見」の一つ目の前段は、報告書に記載する必要があるか意見を伺いたい。

【委員 A】

入れなくても文脈としてはおかしくない。

【事務局】

事務局としても不要と考える。

【アドバイザー】

では、「意見」の一つ目の前段は削除する。

(11) 子育て支援や児童の健全育成の拠点の充実

・評価結果「維持」

【委員 F】

「意見」の一つ目に「児童館等への来館や訪問による」とあるが、訪問は何を指しているのか。児童館への訪問という話ではなかったはずである。

【事務局】

ヒアリングの際に担当課から、子育てコンシェルジュが新生児の定期健診に出向いているという説明があった。

【委員 F】

それが「訪問」では分かりにくい。

【アドバイザー】

では、担当課にも確認し具体的な記載に修正する。

【委員 F】

児童館への来館という部分も、来館するのが子どもなのか保護者なのか分かりにくい。

【アドバイザー】

では、「児童館での相談対応」に修正する。

【委員 F】

ほかに、同意見の少し後に出てくる「子育て」も「子育て支援」ではないか。

【アドバイザー】

「子育て支援」に修正する。

評価報告書（案）全体の内容確認

【アドバイザー】

各委員には、特に 5 ページの「評価全般に関する意見」の部分について確認いただきたい。先ほどの「(3) 火災予防の推進」の議論を受け、については修正済みである。

【委員 F】

冒頭の「本市」を「千歳市」とした方がよい。

【アドバイザー】

「千歳市」に修正する。

【委員 A】

第 6 期総合計画を構成する施策の指標として、アウトカム指標を数値化・定量化して用いていたのか。現在はアウトカム指標となっていない指標もある。

【アドバイザー】

アウトカム指標を積極的に用いていたが、以前は「施設利用者から満足度のアンケートを取って満足度を見る」というような、バイアスがかかってしまう指標も多く、また、アンケートの評価基準として5段階の真ん中「普通」を満足している側として計上するなど、定量化の方法にも課題があった。

【委員A】

それに対しアウトプット指標は、定量化はしやすいが数をこなせばいいとなりやすいものである。

【アドバイザー】

そのとおり。結局のところ、市職員が事業のポイントを正しく押さえていけばよいので、ポイントがズレたり変わったりしないよう見ていく必要がある。

【委員A】

に「多くの施策では事業の結果である『活動（アウトプット）』のみが焦点化され」とあるが、この「のみ」は削除した方がよい

【アドバイザー】

「のみ」を削除する。